

CASBEE®新潟 | 評価結果 |



- 使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアルv.4.0、CASBEE-建築(新築)2016年版
 ■使用評価ソフト: CASBEE新潟v.4.0

1. 建物概要

建物名称	新潟薬科大学 学生会館	
建設地	新潟県新潟市秋葉区東島字山居265番地1	
用途地域	都市計画区域内 市街化調整区域	
建物用途	学校,	
竣工年	2018年7月 予定	
敷地面積	92,763.61 m ²	
建築面積	465.82 m ²	
延床面積	2,064.98 m ²	
階数	地上5F	
構造	RC造	
評価の段階	実施設計段階評価	
評価の実施日	2017年7月1日	

2. CASBEE新潟の評価結果

	B+	$BEE = \frac{Q \text{ 建築物の環境品質}}{L \text{ 建築物の環境負荷低減性}} = \frac{53.3}{51.2} = 1.0$
S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★		

3. 新潟市の重点項目の評価

重点項目	平均スコア	評価アイコン	項目	スコア
1. 長寿命化の取組み 建築物を長く、安心・安全に使い続けるために	3.5		バリアフリー計画	Q2.1.1.3 3.0
			維持管理	Q2.1.3 4.5
			設備の更新性	Q2.3.3 3.0
2. 地震への取組み かけがえのない人命、財産を守るために	3.2		耐震・免震・制震・制振	Q2.2.1 3.0
			信頼性	Q2.2.4 3.4
3. 大雨への取組み 大雨に強いまちづくりのために	3.0		雨水排水負荷低減	LR3.2.3.1 3.0
4. 自然エネルギー利用の取組み 地球温暖化対策のために	3.0		建物外皮の熱負荷抑制	LR1.1 3.0
			自然エネルギー利用	LR1.2 3.0
5. 資源循環の取組み 持続可能な循環型社会づくりのために	3.3		節水	LR2.1.1 4.0
			躯体材料以外でのリサイクル材の使用	LR2.2.4 3.0
			部材の再利用可能性向上への取組み	LR2.2.6 3.0
6. 水と緑を活かす取組み 豊かな自然環境を次世代に引き継ぐために	2.5		生物環境の保全と創出	Q3.1 2.0
			敷地内温熱環境の向上	Q3.3.2 3.0
7. 新潟のまちなみへの取組み 地域の個性や魅力を活かしたまちづくりのために	2.5		まちなみ・景観への配慮	Q3.2 3.0
			地域性への配慮、快適性の向上	Q3.3.1 2.0

4. 新潟市の重点項目の配慮事項

- 長寿命化として外壁のRCには弾性系アクリルシリコン塗装を施し長寿命化を図ります。
- 地震への取組みとして非構造部材、設備の固定等に十分配慮しアンカー等の選定を行います。
- 節水型の器具を採用します。
- 景観への配慮として既存外壁デザインに配慮した外観としました。

CASBEE[®]新潟

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアルv.4.0、CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE新潟v.4.0

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	新潟薬科大学 学生会館	階数	地上5F
建設地	新潟県新潟市秋葉区東島字山居265番地1	構造	RC造
用途地域	都市計画区域内 市街化調整区域	平均居住人員	30 人
地域区分	4地域	年間使用時間	2,000 時間/年(想定値)
建物用途	学校	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2018年7月 予定	評価の実施日	2017年7月1日
敷地面積	92,764 m ²	作成者	田崎 呂室
建築面積	466 m ²	確認日	2017年7月1日
延床面積	2,065 m ²	確認者	堀川 猛



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.0

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.1

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.3

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.3

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 2.5

LR のスコア = 2.9

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 2.7

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.0

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.1

3 設計上の配慮事項		
総合	その他	
自然環境と共生を図り、自然通風・採光等、自然エネルギーを有効利用した計画とします。		
Q1 室内環境 各室は利用時間帯が不規則であるため、ガスエンジンヒートポンプと全熱交換ユニットによる個別空調方式とします。 3階の大会議室と、4階の展望ラウンジについては、ガ	Q2 サービス性能 学生会館には学生の厚生環境の充実を図るため、保健室の拡張やこころの休憩室の設置をします。また、最上階には展望ラウンジを設け、自習や談話が可能な環境を設えます。また、キャリア支援室を拡張し、学生のキャリア支援	Q3 室外環境 (敷地内) 既存校舎の外観と調和するよう、外観デザインに配慮しました。
LR1 エネルギー Low-Eガラスを採用しました。 空調方式はガスヒートポンプエアコンと全熱交換ユニットにより省エネに配慮しました。	LR2 資源・マテリアル 節水器具を採用しました。	LR3 敷地外環境 室外機置場を屋上に設置し、周囲への騒音等に配慮しました。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される